

セ ン サ ー

1998年 1月号 第31号

東京温度検出端工業会 会報

年 頭 所 感

会 長 荻 野 紘 一

会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。昨1997年を振り返って見ますと、波乱、混迷、激動の一年であったと言えましょう。証券大手4社と第一勧銀という日本を代表する証券、銀行の総会屋への巨額な利益供与事件、又7月頃からゼネコンをはじめ大型スパー、或は証券会社や銀行の倒産などの経営破たんが相次ぎました。

個人消費はとみれば4月の消費税の2%アップを境に所得税の特別減税の打切り、医療保険料の保険料アップなどにより消費者の財布のひもは堅くなり、百貨店や自動車の販売不振、更には一昨年ヒット商品だったパソコンまでもが不振という所謂消費不況に陥りました。

一方アジアに目を展じて、7月2日のタイ通貨バーツの変動相場制への移行を発端とした所謂アジアの金融システム不安、通貨危機が大きく浮上しました。日本でも三洋証券の経営破たんを引金とした金融システムの戦後最大という危機を迎えました。

これら暗いニュースの一方で、一過性とはいえ「たまごっち」「ポケモン」のヒット商品が生まれたり、NASAの火星探査機「マーズ・パスファインダー」の火星着陸、土井隆雄さんのスペースシャトル「コロンビア」よりの日本人初の船外活動、又はサッカー日本代表チームのフランスでのワールドカップ出場などの明るいニュースも目につきました。

この様な世相のなか、12月1日より、地球温暖化防止京都会議(COP3)が開催され、2008年以降の温室効果ガス削減の数値目標が討議され、EUが8%、米国が7%、日本が6%で決着し、法的拘束力を持った「京都議定書」が採択されました。日本は当初2.5%削減を想定して「総合省エネ対策」を策定し、経団連でも「環境自主行動計画」をまとめていたが、目標が3.5ポイントも上積みされたため、計画の見直しを迫られる事になりました。

私はこの環境問題に今一番関心が強い。自然をこよなく愛する私としては、所謂地球環境負荷の軽減に企業や個人として最大限努力し、消エネ化を促進する事は、地球の未来を左右する事にもなると同時に私達の子孫へこのかけがえのない地球の自然を残す義務がある。つまり子孫からこの自然を前借りしている訳であります。この温室効果ガスの削減が日本経済に及ぼす影響は一時的には経済構造が変らなければ、生産活動は純化し、経済成長が減速する可能性はありましよう。企業が省エネ投資をする為収益を圧迫し、削減義務のない途上国

などへの工場移転が進む事も予想されるからです。

しかし、この温暖化対策が環境関連産業を中心とした「消エネ型」に経済構造が変化し、更なる市場を拡大するというビジネスチャンスもあると期待されております。過去にも石油ショックをきっかけに、自動車や電機業界などが競争力を向上させ、世界に君臨した実績があるのですから。

この様に絶えざる技術革新が今後の我々の進むべき道であろうし、それによってもたらされた技術が結果的に自然保護や人類の生活向上に（技術輸出を含めて）必ずや貢献すると思えます。何しろ研究開発の面で見ると、一昨年米国で成立したパテントのトップ10のうち8社までが日本だったそうですから。今後の日本の先端技術がある面では世界標準となり、リードして行く事が期待されます。

この様な経済環境の中、私達の業界も、コジェネレーションが省エネの手段となる事等を考えれば必ずや前記した様な意味での貢献が出来ると思っております。

最後に昨年私が感銘を受けた言葉（詩）を御存知の方もおられるとは思いますが、2～3御紹介して、年頭の御挨拶とさせていただきます。

〴〵者は現在多くの人々に感動を与え、いのちの詩人といわれる相田みつをとという方です。略歴は大正13年足利市生まれで昭和17年足利中学を卒業、同年曹洞宗高福寺（足利市）の禅僧・武井哲応老師と出会い、在家のまま師事し仏法を学んでいます。平成3年足利市で逝去。享年67才でした。平成8年には銀座に「相田みつを美術館」がオープンしました。

ただいるだけで

あなたがそこに
ただいるだけで
その場の空気が
あかるくなる
あなたがそこに
ただいるだけで
みんなのところが
やすらく
そんなあなたに
わたしもなりたい
みつを

自分の花
名もない草も
実をつける
いのちいっぱい
自分の花を
咲かせて
みつを

七転八倒

つまづいたり
ころんだり
するほうが
自然なんだな
にんげんだもの
みつを

うばい合えば足らぬ
わけ合えばあまる
うばい合えば憎しみ
わけ合えば安らぎ
みつを

会の動き

- ◎平成9年2月7日 理事会
㈱ Netzsinの入会を承認。
講演会を3月17日に行うことを決定。
- ◎平成9年2月7日 新春懇親会
品川「植むら」において。参加者 35名。
- ◎平成9年3月17日 講演会
「人事システム、人材開発の現状と今後の動向について」
講師 ㈱人事測定研究所 藤江 宏氏。参加者 20名。
- ◎平成9年5月8日 第35回「けんたん会」
武蔵富士カントリークラブにおいて。参加者 12名。
優勝 石福金属興業㈱ 小沢彰二氏
参加者の平均ストローク 98.3 おそらくこれまでのベストスコア。
- ◎平成9年5月29日 理事会
定時総会に提案する平成8年度事業報告、会計報告及び平成9年度予算案を承認。
- ◎平成9年6月5日 定時総会
東海倶楽部において。参加者 33名。
平成8年度事業報告、会計報告及び平成9年度予算案を承認。
理事の改選期にあたり、理事を選出した。
石福金属興業㈱、ジョンソン・マツセイジャパン㈱、助川電気工業㈱、
相互電機㈱、田中貴金属販売㈱、㈱徳力本店、㈱ニッカトー、
㈱日本熱電機製作所、二宮電線工業㈱、山里産業㈱、林電工㈱
以上11社が選出され、ただちに理事会を行い、互選により、会長に相互電機
㈱の荻野紘一社長、副会長に林電工㈱の林 正樹社長が選出され、それぞれ
就任した。
- ◎平成9年6月27日 技術懇談会
都立産業技術研究所において。参加者 43名。
改正された測温抵抗体 JIS の概要
横河電機㈱ 小川実吉氏
金属保護管の応力計測について
都立産業技術研究所 尾出 順氏
- ◎平成9年7月10日 理事会
今後2年間の活動、会のあり方等について意見を出しあった。
理事の選出方法、講演会に変わるものとして、実務的な勉強会を行うこと等
が提案され、今後時間をかけて検討することにした。
今年度の行事の担当を決めた。
- ◎平成9年9月4日 理事会

秋の行事について討議した。おおよその日程と内容を決め、くわしくは、担当理事と事務局で決定し行うこととした。

前回の理事会で提案された、実務の勉強会について具体的な検討に入ることにした。

◎平成9年10月29日 第36回「けんたん会」

習志野カントリークラブにおいて。参加者 12名。

新しい参加者が3名あり、次回からは4組になりそうです。

優勝者 ローズマウントの深井清治氏。参加者の平均スコアは100.0でした。

◎平成9年11月5日 工場見学会

横河電機㈱ 甲府工場、他。参加者 29名。

◎平成9年11月28日 技術懇談会

都立産業技術研究所において。参加者 35名。

白金系熱電対のトラブル事例 (III)

石福金属興業㈱ 宮下誠一氏

ワイヤー法による熱電対の簡易定点校正法

田中金属工業㈱ 寿山幸晴氏

Asia Pacific Metrology Symposiumの話題、他

都立産業技術研究所 尾出 順氏

◎平成9年12月4日 理事会

新春懇親会について。

仮称「温度計実務講座」について、さらに具体化へ向けて進めることにした。

アンケート調査実施中。

平成9年11月5日 工場見学会報告

林電工株式会社 鳥塚 拓矢

今回の工場見学会のような製造ラインを見学するのは、小学校の社会科見学以来なかったので、貴重な体験ができました。

まず、午前の訪問先の横河電機㈱の甲府工場では、レコーダー、伝送器の製造工程を見学しました。ここでは、一貫生産を目指し、各部署で人手が余ると設備投資をして今まで外注に頼んでいたものを自社で製造するようにしているとの話でした。ジャストインタイム（必要なときに必要なものだけ）を考えると、自社で製造した方が、コストも安く納期も早くなり、在庫も減り効率が良くなるとのことでした。また、ながら化ということ常にながら作業に取り組みされていて、例えば何か機械に入れて待つ間も何か作業をしながら待っていて効率良く無駄をなくされていました。ISO9000を取得されているだけあって、1ラインの生産台数、時間も何分何秒とこと細かく決まっていました。作業手順もわかりやすく、かつ欠品を出さないように、ある部署では最初にバーコード入力すると棚のランプが光るので、そこから順々に部品を取り付けていました。工程が一つでも間違えるとラインが止まる仕組みやチェックシートを多く活用することにより、社内で製造する製品は欠品はないとのことで品質管理の徹底がうかがえました。また、ISO14000の取得を目指されていて、ゴミの分別も再利用できるゴミとできないゴミを分けてられていたり、清掃も行き届いて場内がとてもきれいで、環境への対策も真剣に取り組まれている様でした。さらに、広いグラウンドやテニスコートなどの厚生施設の充実には驚きました。このようになるために、17年間でいろいろ改善されたそうです。「ローマは1日にして成らず」という諺通りに長い間にいろいろな人のアイデアの積み重ねによって、会社は成り立つものであることを再確認することができました。

午後は、勝沼ワイナリーを訪問致しました。プロモーションビデオを見た後、ぶどうからワインができるまでの工程を見学しました。その中で、温度センサーの実際の使用現場を見学でき勉強になりました。ワインは、水をいっさい使わないことや原料もぶどうに限らず穀物、果実、胡麻などがあることも初めて知りました。最後に、いろいろなワインの試飲ができとても有意義でした。

今回の工場見学で、これからの工場経営は在庫を減らし品質向上につとめて、設備の近代化をはかり、環境問題に取り組む必要があると思いました。

以上、乱文ですがご報告させていただきます。

末筆ながら幹事様、工場関係者の皆様にこの場をお借りして、お礼を申し上げます。

電気計測器 生産

(金額：百万円，前年比：前年同期比増減率%)

(出所：通産省生産動態統計)

生産	電気測定器				工業計器														
	信号発生器・発振器		測定用記録計・データ処理装置		その他の電気測定器		発信器				圧力計		液位計						
	数量	金額	前年比	数量	金額	前年比	数量	金額	前年比	数量	金額	前年比	数量	金額	前年比				
96(H8)暦年	17,399	8,842	24.1	63,599	19,647	3.5	54,636	7.6	293,535	3.8	451,312	10,047	16.4	93,133	12,170	18.5	29,778	6,471	4.9
96(H8)年度	17,252	8,638	27.4	63,218	20,386	6.4	54,603	6.2	285,653	-0.9	469,854	10,354	15.4	95,683	12,565	14.9	30,939	6,681	1.3
96/7～9	4,061	2,980	94.0	16,583	5,138	8.5	13,976	8.1	73,633	6.8	110,098	2,590	13.4	23,199	3,234	22.7	7,413	1,478	-8.0
96/10～12	4,121	1,720	22.1	15,026	4,826	13.4	13,216	8.5	65,898	-6.4	116,214	2,618	18.9	24,756	2,990	11.6	7,799	1,760	-5.5
97/1～3	4,965	2,367	-7.9	17,346	6,439	13.0	14,169	-0.2	77,331	-9.2	125,627	2,716	12.7	25,559	3,443	13.0	9,453	2,213	10.5
97/4～6	3,627	1,827	16.4	14,379	3,953	-0.7	12,115	-8.5	60,928	-11.4	126,111	2,578	6.1	18,711	2,487	-14.2	6,481	1,473	19.8
97/6	1,517	780	72.6	5,192	1,448	12.0	3,782	-23.4	19,969	-0.8	44,062	812	10.0	5,835	751	-20.7	2,372	443	-1.8
97/7	1,325	715	-34.5	4,995	1,381	-15.4	4,312	0.0	19,935	-5.1	50,610	952	3.3	5,626	769	-37.8	2,368	515	18.4
97/8	1,349	567	-23.0	4,821	1,397	-3.5	4,008	-8.1	19,801	-13.7	35,695	898	13.4	4,780	646	-27.7	2,497	551	12.7
97/1～97/8	11,266	5,476	-8.3	41,541	13,170	3.2	34,604	-4.2	177,995	-10.1	338,043	7,144	9.0	54,676	7,345	-9.0	20,799	4,752	14.3
97/4～97/8	6,301	3,109	-8.5	24,195	6,731	-4.7	20,435	-6.8	100,664	-10.7	212,416	4,428	6.9	29,117	3,902	-22.4	11,346	2,539	17.9

生産	工業計器				指示記録計				調節計				補助機器						
	発信器		差圧計		その他の諸量計		温度計		圧力計		液位計		圧力計		液位計				
	数量	金額	前年比	数量	金額	前年比	数量	金額	前年比	数量	金額	前年比	数量	金額	前年比	数量	金額	前年比	
96(H8)暦年	68,852	17,789	2.5	68,284	11,928	11.4	14,221	12.9	148,907	15,678	-4.4	415,058	14,722	5.7	303,445	8,463	6.5	68,852	17,789
96(H8)年度	67,833	18,356	6.3	68,613	12,203	16.8	13,990	7.0	147,609	15,506	-4.0	431,335	14,810	6.0	307,449	8,772	10.5	67,833	18,356
96/7～9	16,501	4,389	9.2	18,410	3,314	19.6	3,562	10.3	39,326	4,018	0.5	98,903	3,627	8.2	73,723	2,037	6.9	16,501	4,389
96/10～12	15,838	4,067	2.9	16,925	2,901	22.9	3,415	21.3	38,188	3,611	-10.1	107,804	3,707	10.6	80,335	2,231	17.5	15,838	4,067
97/1～3	19,606	6,140	10.2	17,540	3,281	9.1	3,496	-6.2	37,051	4,125	-4.0	126,324	3,980	2.3	83,439	2,614	13.4	19,606	6,140
97/4～6	14,340	3,517	-6.5	16,541	2,874	6.1	3,332	-5.3	29,092	3,106	-17.2	127,190	2,872	-17.8	42,132	1,646	-12.9	14,340	3,517
97/6	4,856	1,139	-3.3	6,564	1,056	10.8	1,173	-1.3	9,013	1,051	-17.2	42,633	884	-29.6	10,298	515	-14.5	4,856	1,139
97/7	6,904	1,093	-15.9	6,112	1,015	-15.8	992	-21.6	8,898	1,035	-19.9	43,688	964	-23.9	11,199	495	-20.9	6,904	1,093
97/8	4,248	1,193	-0.5	5,844	967	3.5	1,003	-9.5	15,862	996	-15.9	31,949	792	-31.3	10,100	522	-8.4	4,248	1,193
97/1～97/8	45,038	11,943	0.9	46,037	8,137	3.6	8,733	-8.1	90,903	9,262	-12.0	329,151	8,608	-12.2	146,870	5,277	-2.1	45,038	11,943
97/4～97/8	25,492	5,803	-7.3	28,497	4,856	0.2	5,237	-9.3	53,862	5,137	-17.5	202,827	4,628	-21.8	63,431	2,663	-13.7	25,492	5,803

編集後記

1997年の後半から特に激しくなった国内、アジア各国の金融不安はいっこうにおさまる気配がありません。日本の円も安くなっていますが、アジア各国の通貨は、半年の間に半分以下、ひどいところは $\frac{1}{4}$ にもなったのですから大変です。円が半年の間に1ドル300円あるいは400円になったのと同じですから、想像するだに大変さがわかります。おそらく数年間はその調整に手間取り、経済は停滞するでしょう。

このアジアの混乱が日本の経済に影響しないはずはありません。すでに半導体製造装置のキャンセルが入ってきているという話しも聞かれます。

我々の業界は、まず設備投資、そして生産の拡大がなければ、売り上げは伸びません。今年はかなり覚悟をしてかからなければならない年になるでしょう。そしてどんなことであれ、これまでと違う方向をみつけ出し、何とかこの危機を乗り越えたいものです。

平成10年1月発行 No.31

発行所 東京温度検出端工業会

事務局

東京都文京区本駒込6-5-5 (林電工株式会社)

電話 3945-3151